



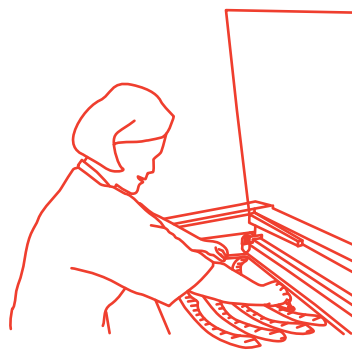
椅 f.Labo 展開図 武道会

~この椅子いっすね!



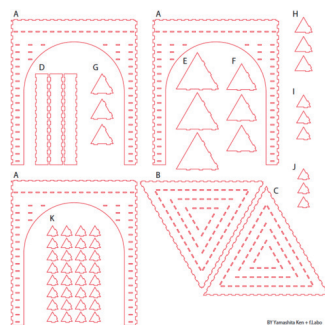
工房で

デジタル工作機械を使い試行
錯誤しながら座れるスツールを
つくる



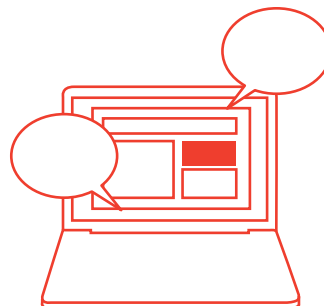
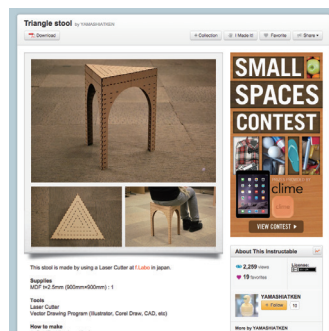
展示会場で

参加者同士、イベント会場の来
場者と出会い、交流する



SNS上で

必ず再現できるような展開図を
指定のSNS (Instructables) に公
開する



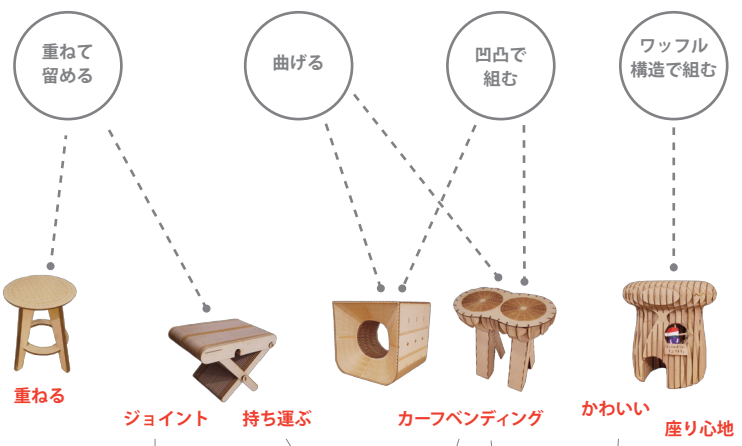
「展開図武道会 ~この椅子いっすね!」は、

統一した制約条件のもとでスツールを制作し、プロダクトとしての完成度を競うことを通
じてデジタルファブリケーションの可能性を探求するコンテストです。2012年から2014年
までに3回開催し、全国各地から43作品が出演されました。

ここでの「展開図」とは、デジタル工作機械があれば作品を再現できる2Dまたは3Dの設計
データのことです。展開図と材料を入手し、身近なファブ施設でデジタル工作機械にアク
セスし、木材をレーザー加工機でカットしたり、3Dプリンターでプリントしたりして部品を
つくり、それを組み立てることで誰でも再現できます。

モチーフやルールは大きく3つの狙いのもとに設定しました。まず、スツールをモチーフに
することで意匠に加えて強度のことも考えて設計する必要が生じることにより、ものづく
りの楽しさである試行錯誤を体験してもらえるようにしました。そして、すべての作品を展
覧会で展示することで、多くの来場者に見ていただけるようにするとともに、参加者同士が
お互いに経験やノウハウを共有し、コミュニティを形成できるようにしました。くわえて、展
開図をオンラインで共有することで、派生物が生まれやすくなるようにすると同時に、この
活動が世界中に拡がるようにしました。展開図武道会は今後も継続して開催したいと考
えておりますので、次回開催時には参加していただけましたら幸いです。

2012



紙面左側は、投票のコメントを参考に、座り心地と技法、形状でマッピングしたものです。丸い印は入賞作品です。

2012年はワッフル構造で作られた椅子が多く出展されました。中でも座り心地がよく安定感があり、可愛いスツール「きのこスツール」が圧倒的に人気でした。

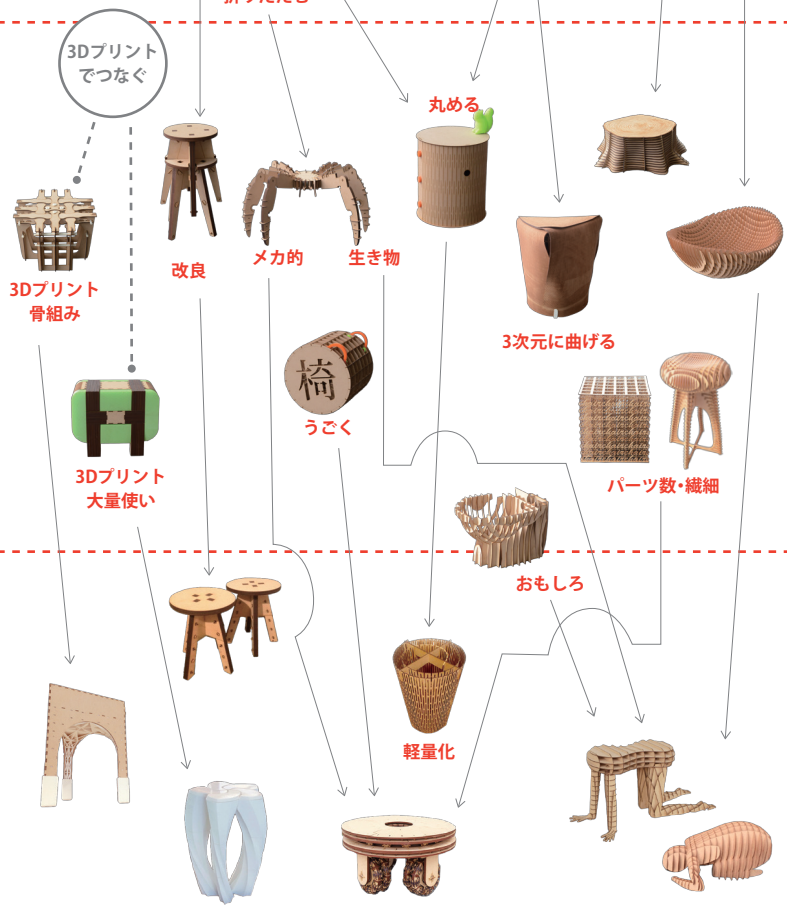
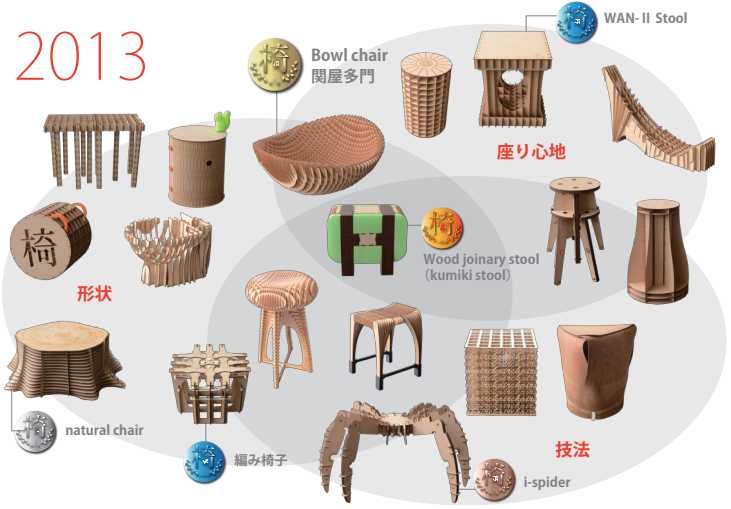
2013年は座り心地と美しさを備えた「Bowl chair」が1位。木材で切り株をつかった「natural chair」、蜘蛛が身を隠すために椅子に変身する「i-spider」などストーリー性があるものが人気でした。

2014年は形状の面白さに挑戦した作品が多かった回でした。中でもくるくると動く+誰もつくろうとは思えない様なパーツ数で作られた「Wheel Stool !!!」が1位&小林茂賞を受賞しました。

また紙面中央は、開催を重ねることによって生まれた新たな作り方の特徴(技法・コンセプト)の連鎖を図解したものです。改良した派生作品や、より面白い技法や目を引くスツールが生まれているのが3年続けてみるとわかります。



2013



スツール制作条件[第3回(2014)版]

- (1) 材料は2.5mm厚MDFサブロク板2枚以内、3Dプリントされた出力物
- (2) 接着剤やネジ等、その他の材料は使用禁止
- (3) 加工機材はレーザー加工機、CNCルーター、CNCミリングマシンおよび3Dプリンタに限る
- (4) 塗装・やすりがけ仕上げは不可
- (5) 大人が座れるサイズ、強度であること
- (6) 同等の機材と材料を揃えれば再現可能であること
- (7) 作成データを公開する
 - ① 本応募切までにInstructablesへ加工データを投稿 (<http://www.instructables.com/>)
 - ② 公開データの形式は、2DデータはPDF形式、3DデータはIGES形式もしくはDXF形式などの編集ができる形式
 - ③ 完成写真および制作過程の写真(どちらも数枚)必須
- (8) 武道会会場に参加する

2014



紹介したスツールの詳細はWebサイトをご覧ください! ※第1回は一部作品のみ

<http://f-labo.tumblr.com/TenkaizuBudokai>

小野寺志乃、益田佳奈、大網拓真、渡辺圭介(FabLab仙台スタッフ)/ 薬師川楓、小林秀光(FabLab仙台ユーザー)